

吉野復興大臣の岩手県訪問ぶら下がり会見録
(平成30年5月12日(土) 14:35-14:45於) 久慈市あまちゃんハウス)

1. 発言要旨

本日は野田村と久慈市を訪問いたしました。

野田村では、「岩手県野田村荒海ホタテ」の生産施設を視察いたしました。普通、ホタテの養殖では穴をあけて、ぶら下げて、そのまま1年、2年、3年くらい置いておくのですが、この荒海ホタテは最初に稚貝を三角の網の中に50個入れます。そして、ある程度育つと、半分の25個、そして15個、最後は4個というふうに、入替えを行い、大変な手間暇をかけて、育てています。でも、成長がすごく早くて、肉厚で本当においしいものが頂けます。

そして、地理的表示「GI」の登録も受けましたので、これは高い値段で買っていただける、きちんとしたお墨付きを得ることができたということで、大変心強く思っています。

ここを訪問して印象に残ったことは、若い漁師の方々が多かったということです。その分、若い方々がきちんと参入できるということは、きちんと利益が上がっている、そういう証左である、と理解をしておりますので、これからも応援をしていきたいと思っております。

次に、久慈市を訪れまして、マルヒ製材に伺いました。ここはアカマツを中心に製材をして、岩手県のアカマツを全国に売り出そうという意気込みを持っているところです。復興庁の事業の中に、「結の場」という事業がございます。これは、地元の方々と大手を結びつける役割を担っている事業ですが、ちょうどその「結の場」を通じて、大手事務機器のイトーキ、ここは木材を使った事務機器を開発しているところがございますが、そこと「結の場」を通じて、タイアップができて、多くのアカマツの製品を開発し、販売することができた、そういうところも見てまいりました。

最後に、このあまちゃんハウス、平成28年8月6日にオープンしましたが、8月末の台風10号によって、1階は水浸しとなり、ほとんどの展示品が流されて、泥をかぶってしまいました。でも、御覧のようにここまで復活をしたわけでありますので、私も久慈市というと、あまちゃんしか思い出せないくらい、あまちゃんのイメージが強いものですから、大臣になってからも、のんさんが2回、大臣室を訪れて、いろいろ復興の応援をしていただいているところがございます。そういう意味であまちゃんをPRする施設として、これからもますます利用をしていってほしいと思って

いるところでは。

2. 質疑応答

(問) 岩手日報と申します。お願いします。

およそ1年ぶりの久慈地域への視察だと思えるんですけども、当時と比べて、復興の進捗状況についてはどのようにお感じになりましたでしょうか。

(答) 市からも要望がございましたけれども、かなり復興が順調に進んでおります。でも、湾口防波堤等々、平成40年までかかるということでございます。基本的に復興庁としては、残り3年で復興庁が存続する期間では、あらかじめ終わらせたいということでございます。あと3年の間には、かなりの部分も完成する見込みだと思いますけれども、港湾の入り口の堤防は、それをもってしても、平成40年までかかるということでございますので、そういう要望を受けながらも、きちんと対応していきたいと考えています。

(問) また、今日は漁業と林業と、こちら観光部門と、産業の再生というのがこれから課題になってくると思うのですけれども、そちらのほうで、復興庁としてどのようなこれからの支援というのをお考えでしょうか。

(答) ハード面は確かに順調に進んでおります。これからは漁業、林業、そして観光、このソフト部門のところにもきちんと力を入れていかねばならない。荒海ホタテのように地理的表示「GI」をとって、売れているというところもございますけれども、岩手県全体としては、特に水産加工物の販路がなかなか思うようにいきません。ですから来月か近々にも、仙台で2日間にわたって、水産物の商談会が開かれますけれども、そういう商談会を利用しながら、販路拡大をこれから目指していきたい。

また、林業も、このマルヒ製材は、従業員を震災前よりも増やして、売上げも伸ばして、本当に素晴らしい成果をおさめているところがございますけれども、全体的に見れば、やはり売上げが低迷をしているというのが現実の姿でございますので、そういうところの支援、ハンズオン事業という形、そしてまた、専門家派遣という形で、いろいろ地元の企業に対する支援制度がございますので、そういうものを活用して、これからやっていきたい、このように考えています。

(以 上)